

JA長野県「女性のつどい」～次世代へつなぐ食農教育～

9月25日に塩尻市の文化会館レザンホールにおいて、JA長野県女性協議会による「女性のつどい」が県下13JAから約330名が集まり開催されました。当JAからも女性部員17名が参加しました。また、会場では女性部員による手作り加工品の物品販売が行なわれ、部員同士の交流や買い物を楽しむ姿が見られました。

つどいではフレッシュミズ最優秀作品の作文発表、参加全JAによる30秒スピーチも行なわれ、JA長野八ヶ岳からは南牧支所の中島恵美子さんがJA長野八ヶ岳女性部で取り組んでいるフードドライブ活動や学校給食の野菜提供についてスピーチしました。

後半は「学びとつながりを広げる“食べものがたり”」と題し、法政大学人間環境学部教授の湯澤規子さんによる講演が行なわれました。生まれた時から持っている人それぞれの食にまつわる物語（食べものがたり）や、地域に残る伝統（地財）の素晴らしさ、食べることの楽しさを自身の体験談を交えながら話してくださいました。

また、JA女性の歌に合わせて行なう『レインボー体操』や『家の光』100周年ダンスの撮影会も行なわれ、会場が一体となり盛り上がりを見せました。

毎年開催されるJA長野県女性のつどいでは、県内JAの女性部活動を知ることや交流もできますので、来年度も大勢のご参加をお待ちしております。





10月6日、小海支所営農生活部の部員8名は町内のレモングラスを栽培している畑を見学しました。小海町では3年前から香料会社と町の農家と協力して、レモングラスの試験栽培に取り組んでいます。レモングラスはもともとインドで生産されており、寒さには弱いので10月中旬には出荷になります。

飲料や香水、柔軟剤、虫よけなどにも入っており、皆さんの生活の身近にある植物です。

香料会社では、購入したレモングラスをフレグランスやフレーバーとして商品化していますが、乾燥させたレモングラスのため、干し草の匂いが少し残っています。そこで、3年間の検証を経て、小海町で栽培されたレモングラスを生のまま入荷し、香料を抽出してフレッシュな香りを売りにする商品を開発中だそうです。

畑一面に広がるレモングラスからは爽やかなとてもいい香りがして、気持ちがいリラックスしました。

